

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立双葉西小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数ともに平均正答率は全国とほぼ同程度であり、一定の定着がみられます。
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」の話し手が伝えたいことと自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。また、「読むこと」では、必要に応じて、文章や図表から必要な情報を見付けることができている。一方、「記述式」の分野は全国と同様苦手分野となっており、「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題がみられます。
- ・算数では、「図形」や「変化と関係」の分野に定着がみられ、特に「伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を読み取り、比例の関係を説明する」や「図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだす」ことがよくできています。一方、「数と計算」の分野で四則混合の式や（ ）を用いた式、交換法則や分配法則などの計算のきまりや性質について課題がみられます。
- ・国語、算数ともにほぼ全ての問題で「無解答率」が全国に比べて低い結果となりました。児童が意欲的に学力調査に取り組んだことが分かります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
いじめへの認識、話し合いで考えを深める活動への意欲が高い数値を示しています。ICT機器の使用頻度について「ほぼ毎日」「週3日以上」と答えた割合が非常に高く、学習活動の中でICT機器の活用が日常化していることがわかります。また、地域の行事に参加したい、地域をよくするために行動したいと回答した児童の割合が高いのは、地域の「学校応援団」によるさまざまな活動を通して、地域とのつながりを強く感じている結果だと思われます。
- ・課題となる項目
「国語や算数の授業が好き」と答えた割合が全国を上回っている一方、「学習したことが、社会に出たとき役に立つ」と答えた割合が全国平均を下回っています。学習していることの有用性について理解し、意欲的に学べるよう授業を進めていくことが、これからの課題と考えます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びのできる授業づくりに取り組みます。
- ・児童の思考力、判断力、表現力を伸ばすために、図やグラフ、資料等を提示しながら自分の考えや思いを伝え合う場面を意図的に設定し、学年をとおして「学び合いの授業」づくりに引き続き取り組んでいきます。
- ・国語では、読書を推進するとともに、ニュースや新聞記事から必要な情報を読み取り、根拠や意図を明確にして自分の考えを書いたり、伝えたりする学習活動を進めていきます。
- ・算数では、計算の仕方を言語化したり、計算のきまりや性質について具体例を用いたりしながら、児童の理解を深められる授業づくりに取り組みます。
- ・日常生活や社会の事象と学んだことを関連づけて考える授業づくりに取り組みます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習など今後も児童の安定した生活習慣づくりをお願いします。
- ・生活のリズムを整え、ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関わる家庭ルールを決め、しっかりと守らせましょう。
- ・お子さんの音読を聞いたり、親子でいろいろな本を読んだりする機会を増やし、一緒に読書を楽しみましょう。